

## 様式 F-7-1

## 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成24年度）

1. 機関番号	4   2   6   7   6	2. 研究機関名	大妻女子大学短期大学部																													
3. 研究種目名	基盤研究(C) 平成23年度～平成27年度																															
5. 課題番号	2   3   5   7   0   0   1   1																															
6. 研究課題	分裂酵母新規DNA領域局在化RNA群の解析																															
7. 研究代表者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>研究者番号</th> <th>研究代表者名</th> <th>所属部局名</th> <th>職名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2   0   2   9   4   5   4   8</td> <td>タケウチ トモコ 竹内 知子（安東知子）</td> <td>家政科</td> <td>准教授</td> </tr> </tbody> </table>				研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名	2   0   2   9   4   5   4   8	タケウチ トモコ 竹内 知子（安東知子）	家政科	准教授																				
研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名																													
2   0   2   9   4   5   4   8	タケウチ トモコ 竹内 知子（安東知子）	家政科	准教授																													
8. 研究分担者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>研究者番号</th> <th>研究分担者名</th> <th>所属研究機関名・部局名</th> <th>職名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>				研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名																								
研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名																													
9. 研究実績の概要	<p>遺伝情報は、遺伝子の本体であるDNAからRNAに写し取られて発現する。したがって、RNAの細胞内局在化は、遺伝子発現を時空間的に制御するための重要な現象である。本研究は、我々が発見した多数の新規細胞内局在化RNAのうち、核内のDNA領域に局在するRNA群について、局在化に必要なRNA配列や局在化機構を明らかにすること、および局在化の生理的意義を解明することを目的とし、局在化RNAの全貌解明に貢献することを目指している。本年度は平成23年度に引き続き、核内のDNA領域に局在する8個の新規局在化RNAのうち、B1199とF958の2つのRNAについて解析した。</p> <p>平成23年度に、B1199の局在化配列をマーカー遺伝子につないで酵母の細胞に導入したところ、マーカー遺伝子の遺伝子産物（マーカー蛋白質）の発現が1/4程度に減少したことから、B1199の局在化配列の付加によってマーカー遺伝子由来のmRNAが核内に係留され、細胞質への移動が制限されることが示唆されていた。しかし、同じく平成23年度に、B1199の局在化配列を付加したマーカー遺伝子のmRNAの局在について、タグ-GFP法およびin situ hybridization法を用いて顕微鏡下で観察したところ、核への顕著な局在を検出することはできなかった。本年度は、B1199の局在について、タグ-GFP法で再確認を行なった。B1199を局在化RNAとして発見した当時とは、研究室が変わり主たる実験者も変わったので、再確認を行なったのであるが、B1199の顕著な局在化を観察することが困難であった。</p> <p>° F958については、ゲノム上の局在化配列の破壊を目指し、複数の方法で繰り返し試みたが、失敗した。</p>																															